

平成 30 年度学校評価及び令和元年度重点課題

1. めざす学校像

- 【教育方針】 個々の能力を十分に伸ばさせるとともに、品性の高い教養ある人間を育成する。
思いやりのある豊かな心、真理を追究する真摯な心、自己を厳しく律する克己の心を育て、文化国家の担い手にふさわしい人材を育成する。
- 【教育目標】 豊かな知性、正しい判断力、理解力を養うことを教育の根本とし、将来の目標を達成するために、恵まれた環境を活用してきめ細かい指導を行う。
基本的な生活習慣を身につけるための躰については充分留意、厳しく指導し、あくまでも清楚にして質実健全な校風の高揚につとめる。

2. 中期的目標

1. はじめに

普通科総合選択制・進路別指導により、本人の能力を十分に発揮できる教育を目指す。
多様で個性のある子どもを受け入れることが出来る学校として、その存在感を教職員全体で示していく。
総合選択制の優位性を個々の指導に反映させるとともに教員の意識改革を進める。

2. 普通科総合選択制の更なる充実

- (1) 満足度調査（生徒向けアンケート）の実施
- (2) 基礎学力の底上げと選択科目の充実
- (3) 共通履修科目・TT 授業の拡充
- (4) 個々のニーズと学力向上
- (5) 総合的な学習指導
- (6) 進路別指導、小論文指導 エリア学習（公開に向けた取り組み）
- (7) ICT を導入した授業展開（すらら等）の充実
- (8) 指導要領改訂に向けて

3. 生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

- (1) 遅刻指導の徹底
- (2) 定期的な頭髪服装検査の実施
- (3) 登下校中のマナーを意識させる。
- (4) 講習会の実施（薬物、道路交通法、ネット犯罪等）

4. 生徒自身の自主活動を充実させ、自律の精神を養う

- (1) 体育祭、文化祭等の学校行事等の充実
- (2) 部活動の活性化
- (3) 生徒会活動の充実

5. いじめ問題

【普通科総合選択制アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

普通科総合選択制アンケートの結果と分析[平成 30 年 3 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>昨年度は「進路」・「興味関心」・「シラバス」を基準として授業を選択した生徒は「満足度」が高い傾向がみられ、それに対して、「エリア」・「難易度」・「楽しい」を基準として選択した生徒は「満足度」が低い傾向となった。「エリア」を基準とした生徒のほとんどは進路とエリアが結びついていないことが考えられたが、今年度は、「エリア」と「進路」が結びつき、合致したことで満足度が高くなった。また、昨年度同様「難易度」・「楽しい」等を基準とした生徒については、前向きな意識が低いことが原因であると考えられる。</p> <p>[分析] 全体としては、「エリア」と「進路」の結びつきをより意識し、「進路」について早い時期から前向きに意識している生徒の満足度が高くなり「進路」への意識が満足度に大きく影響する傾向が見られた。普段の授業の際に、より「進路」と「エリア」を意識づけすることが出来ていることで満足度が高くなっている。</p> <p>したがって 1 年次の早い時期に「進路」を意識付けができるかということと生徒それぞれが「進路」にもとづいて自分のための選択を自分自身でできるかということを念頭に進路指導・エリアや授業選択の指導をおこなっていく必要がある。そのためにも、引き続き生徒個々の様子を見極め、教員側が普通科総合選択制についての理解をより深め、生徒にどう伝えていくかが課題となってくる。</p>	<p>* 高等学校の教育の質の向上に向けて、継続的に取り組んでいることは大いに評価できます。また、箕面学園の教育理念をもち、教育目標を実現し、教職員が一丸となって目標、課題に沿って一生懸命努力し、取り組んでいる姿勢に対して評価できます。</p> <p>* 教職員の“普通科総合選択”の理解をより一層深め、生徒の進路決定に効果的な指導を行う為、定期的に行っている研修会や報告会などの成果が少しずつ表れてきているように思います。</p> <p>* 1 年次に進路を考え出している生徒の割合が増え、より早く生徒自身が目標を設定できるよう、1 年次の体験授業を始め進路指導の充実が感じ取れます。</p>
遅刻数頭髮指導者集計・学校行事アンケートから結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>遅刻指導・身だしなみ等、各学年・生徒指導部中心に検査を実施してきた。</p> <p>数年前と比べると、遅刻数も大幅に減少し、頭髮検査で指導も受ける割合も少なくなってきた。ポイント指導という本校独自のものも取り入れ一定の結果も出てきた。学校行事の生徒満足度も、十分なものだと考えられる。クラブ活動活性化では、近年厳しい状況が続いていたが強化クラブも増え、公式戦で上位進出を果たすクラブも出てくるなど今後に期待したい。</p> <p>[分析] 近年停滞傾向であった遅刻者数だが、昨年度は大幅に減少した。</p> <p>ポイント指導等いろいろな本校独自の制度、対策はあるが、生徒一人ひとりの生活習慣が確立されてきているのではないだろうか。しかし長期休暇後は、気の緩みがあるのか遅刻数、頭髮指導者数は多い。</p> <p>学校行事は、満足して参加する生徒が年々増えてきている現状ではあるが、マンネリ化を防ぐため、会場の変更、プログラムの見直し等大きな変化が必要な時期にきている。</p>	<p>* 数年前と比べると遅刻数や頭髮検査等で指導を受ける生徒が年々減少し、学校、教職員の指導の成果だと評価できます。</p> <p>指導の慣例化も統一を持たず意味では大事だが、慣れには十分注意していただき、この時代の子ども達に合わせた指導を、その都度見直していく柔軟さが必要だと考えます。</p> <p>* 学校行事での充実度は満足できるものだと感じます。学校行事は自分自身で作りに上げていくものということ、より充実した内容の行事や新たな行事を考えるなど年々より良い行事を作り上げてください。</p> <p>* クラブ活動加入率が 50%を下回る状態が、長年続いているのは大きな問題であります。クラブ責任者のみならず、学園全体での重要課題の一つとして考える必要があります。しかし、「エリア」の確立、「アスリートエリア」による強化クラブの活性化を大いに期待します。</p> <p>* 生徒を「親切に、丁寧に、大事に」の考え方をもっと浸透して行って欲しい。</p>

目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
1 普通科総合選択制の更なる充実	基礎学力の向上	生徒による普通科総合選択制についてのアンケートを実施し、教員の授業改善等の参考資料とする	アンケートで普通科総合選択制の理解度や、生徒各々が希望する進路に応じた授業選択または教員が生徒の能力に沿った授業を行っているか肯定率で評価し、全ての項目で60%以上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の満足度平均 70.4% (62.8%) ・専科の満足度平均 68.9% (61.8%) ・基礎教養の満足度平均 71.6% (63.8%) ・2年次の選択授業 満足度平均 69.9% (61.1%) ・3年次の選択授業 満足度平均 71.0% (64.3%) <p>全ての項目で目標数値60%以上を大きく達成し、70%を超えた。</p>
	エリア学習の実施	隔週土曜日、「アスリート」「アドバンス」「キャリアアップ」「キンダーウェルフェア」に分かれ、それぞれのエリアに特化した授業を実施	アンケートでエリア選択が進路と合致しているか満足度により評価。各エリア満足度 80%以上を目指す	<p>エリア別満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アスリート 82.7% ・アドバンス 82.9% ・キャリアアップ 65.5% ・キンダーウェルフェア 87.5% <p>ほとんどのエリアで80%を超える満足度であるが、キャリアアップに関しては、他エリアに比べると少し満足度が落ちる。要因としては、就職、専門学校と幅広い分野での社会学習基礎となる取組みを行うため、他エリアに比べると進路にアジャストした専門的な取り組みが少なく、生徒の職業観や就職への意識を再認識させられていないことが要因と考えられる</p>
	学習習慣の形成	毎朝、ホームルーム 10 分間で学年ごとに朝学習（英・国・数）の課題に取り組む	朝学習に取り組むことで1限目の授業にスムーズに入れるなどの学習習慣の形成	数値化することは困難ではあるが、年々遅刻者も減少しているように少しずつではあるが習慣付けが出来ている
	進路別指導の充実	7限目授業 各々の進路に応じた授業（すらら学習導入（費用の一部学校負担）の検討、ピアノ講座、小論文講座、公務員対策講座等）の実施	基本的に希望者への個別指導で学習の向上を図る。小論文講座についてはテスト後の添削指導を実施	生徒、教員ともに継続への期待が高い。一層の充実を図る。

目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
2 生徒の規範意識を高め、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上	遅刻指導の徹底	毎朝、登校時に阪急箕面駅から学校までの通学路に教員が立ち、登校指導を行う。また、ポイント指導を取り入れ、遅刻数をポイント化し、ポイント数に応じた指導を行う	今年度の一日当たりの遅刻数を過去3年分の数と比較し、算出する	<p>1日当たりの平均遅刻者数 平成28年度 30.6人 平成29年度 26.5人 平成30年度 17.2人</p> <p>平成30年度は昨年度より1日当たりの遅刻者数が大幅に減少しており、一昨年度の1日当たりの遅刻者数と比較してみると半数近くまで減少している</p> <p>・短期的目標 遅刻者数が増加しないよう、日々の指導を徹底する</p>
	身だしなみの徹底	学期はじめ、定期考査中に頭髪服装検査を生徒指導担当、生徒指導専従により行い、改善が必要な生徒には、学年で徹底指導を行う。場合によっては、帰宅指導を行う	頭髪服装検査で頭髪指導数を過去3年分と比較し、年度平均数25%以下を目指す	<p>(平成28年度)20% (平成29年度)22% (平成30年度)18%</p> <p>平成30年度は18%と目標数値25%以下を達成しており、指導数も減少している。しかし、夏期休暇、冬期休暇明けの始業式での頭髪服装検査では指導数が大幅に増加している。長期休暇前の指導を徹底する必要がある</p> <p>長期的目標としては、昨年度にもあげたとおり10%~15%を目指す</p>
	マナーの向上	毎朝、教員が通学路に立ち、あいさつ運動を行い、併せて生徒会でも定期的に行っている	教員、生徒会だけではなく、一般生徒も巻き込んであいさつ運動が出来るように引き続き取り組む	数値化は困難ではあるが、継続して行う
	講習会の実施	平成30年度 実施講習会 ・4月…スマホ・携帯電話安全講習会 ・5月…不審者に対する安全講習会（女子） ・6月…自転車指導講習会 ・2月…薬物乱用防止講習会	講習内容によって、講習後の振り返りを行い、効果や理解の状況を把握している。	実施の効果が確認でき、今後も必要に応じて適宜講習を実施し、生徒の意識の涵養につとめる。

目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指針	自己評価
3 生徒自身の自主活動を充実させ、自律の精神を養う	学校行事の充実	<p>体育祭、文化祭など、生徒一人ひとりが魅力を感じる取組みを行う。</p> <p>他校で行われているプログラムなどを参考にし、クラス単位、学年単位で“自分たちで作る上げる体育祭、文化祭”という意識づけを行う。</p> <p>学外施設を使う体育祭については実施内容を十分に検討し、準備・進行に問題が生じないよう努める。</p>	文化祭、体育祭は生徒向けアンケートを毎年実施しており、それぞれ肯定感 80%以上を目標にあげる	<p>文化祭 平成 30 年度 90%以上で目標達成である。(90.5%)</p> <p>体育祭は生徒アンケートを取っておらず、数値化が困難。競技場の老朽化が目立ち、音響設備にも難あり。会場の見直しを検討する必要がある</p>
	部活動活性化、加入率アップ	オープンキャンパスや新入生向け部活動紹介等をより充実させ、学校 HP、アスリートエリア紹介ビデオ（作成中）等を利用し、各部のアピールを行う	クラブ加入率 50%以上を目指す。	<p>平成 28 年度 46%</p> <p>平成 29 年度 43%</p> <p>平成 30 年度 48%</p> <p>昨年度、一昨年度と比べると、加入率は上がっている。しかし目標数値 50%にはいまだ届かず。</p> <p>1 年生、2 年生は定員割れで入学しているのもあり全体数が少ないのも一つの要因ではある。新しくエリア学習を実施し、「アスリート」として強化クラブも増え、今後に期待したい。</p>
	生徒会活動の充実	<p>主な活動</p> <p>○学校における生徒の生活の改善と向上を図る活動</p> <p>○文化祭運営</p> <p>○ボランティア活動など社会参加に関する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動の実施 ・オープンキャンパス運営補助 ・文化祭運営 ・ペットボトルキャップ回収 ・コンタクトレンズ空ケース回収 ・緑の羽根募金活動 ・箕面祭りボランティア参加 ・青い鯉のぼりプロジェクトの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日、本校正門で実施 ・文化祭満足度調査の結果、肯定感 90%以上 ・校内にそれぞれ専用 BOX を設置し、リサイクルで得た利益をワクチン購入費用等の目的で支援する団体へ次年度末に送付・寄付予定。引き続き行う。 ・平成 30 年度は 5 月と 9 月に校内で実施 15,544 円の募金が集まり、大阪の緑を育てる団体「大阪みどりのトラスト協会」に全額寄付。引き続き行う。 ・2 日間ボランティア スタッフとして、祭会場のゴミステーションで分別作業を行った。 次年度も参加予定。 ・東日本大震災で亡くなった子ども達への鎮魂の意味を込めて掲揚するイベントに参加。 復興活動として、校内での文化祭で東北地方産の缶詰を販売し、売上金を「青い鯉のぼりプロジェクト」に寄付。 次年度も参加予定。 	

3. 普通科総合選択制アンケートについて

第3学年生徒から学年末にアンケートをとり、普通科総合選択制についての現状を調査した。
ここでは、専科・基礎教養の授業評価について以下のように点数化し、「満足度」を計算した。

【方法】 ①たいへん効果があった = 100点 ②それなりに効果があった = 60点
③あまり効果がなかった = 30点 ④効果がなかった = 0点
⑤あまり覚えていない = 得点に含めない
それぞれの回答を点数化 → 平均 = 「満足度」(100%満点)とした。

【それぞれの平均点】

全体の「満足度」	70.4点	(昨年度62.8%)
専科の「満足度」	61.8点	(昨年度61.8%)
基礎教養の「満足度」	63.8点	(昨年度63.8%)
2年次の選択授業の「満足度」	61.1点	(昨年度61.1%)
3年次の選択授業の「満足度」	64.3点	(昨年度71.1%)

《体験実習講座》

1年次の体験実習講座について、自分の進路選択に効果がありましたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④全然効果がなかった	⑤あまり覚えていない
23.8%	45%	11.3%	3.8%	16.3%

《資格検定講座》

意欲的に取り組みましたか？

①たいへん意欲的に取り組んだ	②それなりに取り組んだ	③あまり意欲的に取り組めなかった	④全然取り組まなかった
17.7%	50.6%	24.7%	7%

《選択科目》

「選択の基準」にみられる「満足度」

	専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
①進路	73.7%	78.7%	74.1%	77.9%	76.6%
②興味関心	73.6%	72.0%	70.1%	74.7%	72.6%
③エリア	72.6%	70.1%	70.8%	71.7%	71.2%
④難易度	67.9%	71.1%	66.5%	71.3%	69.7%
⑤シラバス	69.1%	73.0%	64.3%	75.3%	71.3%
⑥考査の有無	70.6%	75.3%	65.3%	82.3%	76.0%
⑦友人と同じ	62.4%	55.4%	58.2%	60.8%	58.5%
⑧先生の勧め	57.8%	59.3%	58.4%	58.4%	58.6%
⑨楽したい	60.5%	61.7%	56.8%	63.7%	61.2%

《専科・基礎教養》

【専科I】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④全然効果がなかった
33%	44%	17%	6%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④全然興味・関心もてなかった
43%	42%	12%	3%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④全然合っていなかった
47%	42%	7%	3%

【基礎教養Ⅰ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④全然効果がなかった
29%	48%	14%	9%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④全然興味・関心もてなかった
34%	41%	17%	8%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④全然合っていなかった
33%	49%	11%	7%

【基礎教養Ⅱ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④全然効果がなかった
49%	37%	9%	6%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④全然興味・関心もてなかった
53%	32%	9%	6%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④全然合っていなかった
53%	34%	8%	6%

【専科Ⅱ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④効果がなかった
41%	43%	12%	4%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④興味・関心もてなかった
49%	36%	13%	3%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④合っていなかった
49%	40%	9%	2%

【専科Ⅲ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④効果がなかった
47%	35%	10%	9%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④興味・関心もてなかった
53%	31%	10%	7%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④合っていなかった
53%	33%	8%	6%

【基礎教養Ⅲ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④効果がなかった
47%	38%	12%	3%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④興味・関心もてなかった
49%	39%	9%	4%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④合っていなかった
------------	-------------	--------------	-----------

49%	33%	15%	3%
-----	-----	-----	----

【基礎教養Ⅳ】について

A 自分の進路選択や進路のための学習に有効でしたか？

①たいへん効果があった	②それなりに効果があった	③あまり効果がなかった	④効果がなかった
54%	30%	11%	5%

B 自分が興味・関心もてる学習内容でしたか？

①たいへん興味・関心もてた	②それなりに興味・関心もてた	③あまり興味・関心もてなかった	④興味・関心もてなかった
60%	28%	8%	4%

C 授業の難易度は自分に合っていましたか？

①ちょうど合っていた	②それなりに合っていた	③あまり合っていなかった	④合っていなかった
59%	30%	8%	3%

専科・基礎教養の内訳

	A (進路)	B (興味関心)	C (難易度)
専科Ⅰ	64.9%	69.2%	72.2%
専科Ⅱ	64.9%	66.0%	68.0%
専科Ⅲ	70.8%	71.6%	72.9%
専科平均	66.9%	68.9%	71.0%
基礎教養Ⅰ	66.0%	69.7%	72.0%
基礎教養Ⅱ	69.1%	71.9%	73.7%
基礎教養Ⅲ	69.1%	70.6%	71.1%
基礎教養Ⅳ	74.7%	76.0%	75.8%
基礎教養平均	69.7%	72.1%	73.2%

●自分の進路について真剣に考え始めたのはいつ頃ですか？

1年生前半	1年生後半	2年生前半	2年生後半	3年生前半	3年生後半	まだ考えていない
14.2%	13.5%	19.4%	23.9%	6.5%	6.5%	2.6%

「進路を決めた時期」にみられる「満足度」

	専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
①1年生前半	81.6%	80.2%	82.3%	80.5%	80.8%
②1年生後半	72.4%	71.3%	69.8%	74.0%	71.9%
③2年生前半	69.1%	69.9%	64.4%	73.4%	69.5%
④2年生後半	69.2%	75.0%	70.5%	73.2%	72.5%
⑤3年生前半	66.1%	62.9%	63.2%	64.4%	64.2%
⑥3年生後半	62.9%	77.1%	69.5%	70.8%	71.0%

⑦進路未定	57.8%	52.7%	56.7%	54.6%	54.9%
-------	-------	-------	-------	-------	-------

<考察>

「①1年前半」に進路を決めている生徒の満足度が80%を超えていることから、入学後から進路について考えている生徒の意識が高く満足した科目選択が出来ていると言える。「⑦進路未定」を選んでいる生徒は、極端に満足度を下げていることから、自分の進路が明確に決められていない生徒は、当然満足した選択が出来ていない。したがって、自分の進路を早い段階で決め、自分の進路に即した選択をすれば、授業への「満足度」も上がると考えられる。

●「進路とエリアの合致」にみられる「満足度」

選択科目別の「満足度」

	専科	基礎教養	2年次	3年次	全体
①ちょうど合っていた	80.6%	83.3%	81.4%	82.6%	82.2%
②それなりに合っていた	68.1%	69.3%	65.5%	71.2%	68.8%
③あまり合っていなかった	60.8%	62.2%	60.6%	62.1%	61.4%
④全然合っていなかった	41.8%	43.0%	46.2%	41.5%	42.3%
⑤わからない	52.5%	47.9%	50.8%	48.6%	49.6%

エリア別でみた合致の割合

	アスリート	アドバンス	キャリア	キンダー	ウェルフェア
①ちょうど合っていた	45.7%	26.3%	37.9%	66.7%	50%
②それなりに合っていた	37%	56.6%	27.6%	33.3%	25%
③あまり合っていなかった	15.2%	7.9%	10.3%	0%	0%
④全然合っていなかった	0%	3.9%	6.9%	0%	0%
⑤わからない	2.2%	5.3%	17.2%	0%	25%

<考察>

進路とエリアが合致すればするほど、選択授業の「満足度」が高い傾向となった。「⑤わからない」のようにエリアの意識が全くない生徒は「満足度」非常に低い結果となった。

エリア別にみたとき、どのエリアも合っていたと回答した生徒が大部分を占めている。中でも「キンダー」と「ウェルフェア」を選んだ生徒は、専門性の高い講座などがあり、「合っていない」を選ぶ生徒はいなかった。しかし、キャリアの生徒は、「③あまり合っていなかった」「④全然合っていなかった」「⑤わからない」を選ぶ生徒が30%以上もあり、有効な選択になるように、進路意識と授業内容など検討する余地がある。

このような分析から、選択授業の選択の際には「進路」+「エリア」を十分に意識させて選択させる必要があることがわかる。そのためにも、1年次の選択科目最終調査までに自分の目標とする「進路」を設定できることが好ましい。

